

リスクマネジメントとジェンダー平等
～COVID-19の経験から新たな世界を創る～

「リスクとELSIの考え方 ～コロナ新時代に向けて」

岸本 充生 (Kishimoto, Atsuo)

大阪大学 社会技術共創研究センター長

データビリティフロンティア機構・教授

日本リスク学会理事



大阪大学 社会技術共創研究センター
Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

Osaka University
Research Center on
Ethical, Legal and
Social Issues

ジェンダー平等とリスクマネジメントの関係

- ジェンダー不平等自体が、国・組織・個人にとって、リスクであり、
- コロナパンデミック（に限らず、あらゆる災害）は、もともとからあるジェンダー不平等リスクを、
- 生物的、経済的、社会的、家庭的、学術的・・・といった多様な方面で拡大したことが
- 実証的なデータからも言われている（し、最初からある程度、予想されていた）。

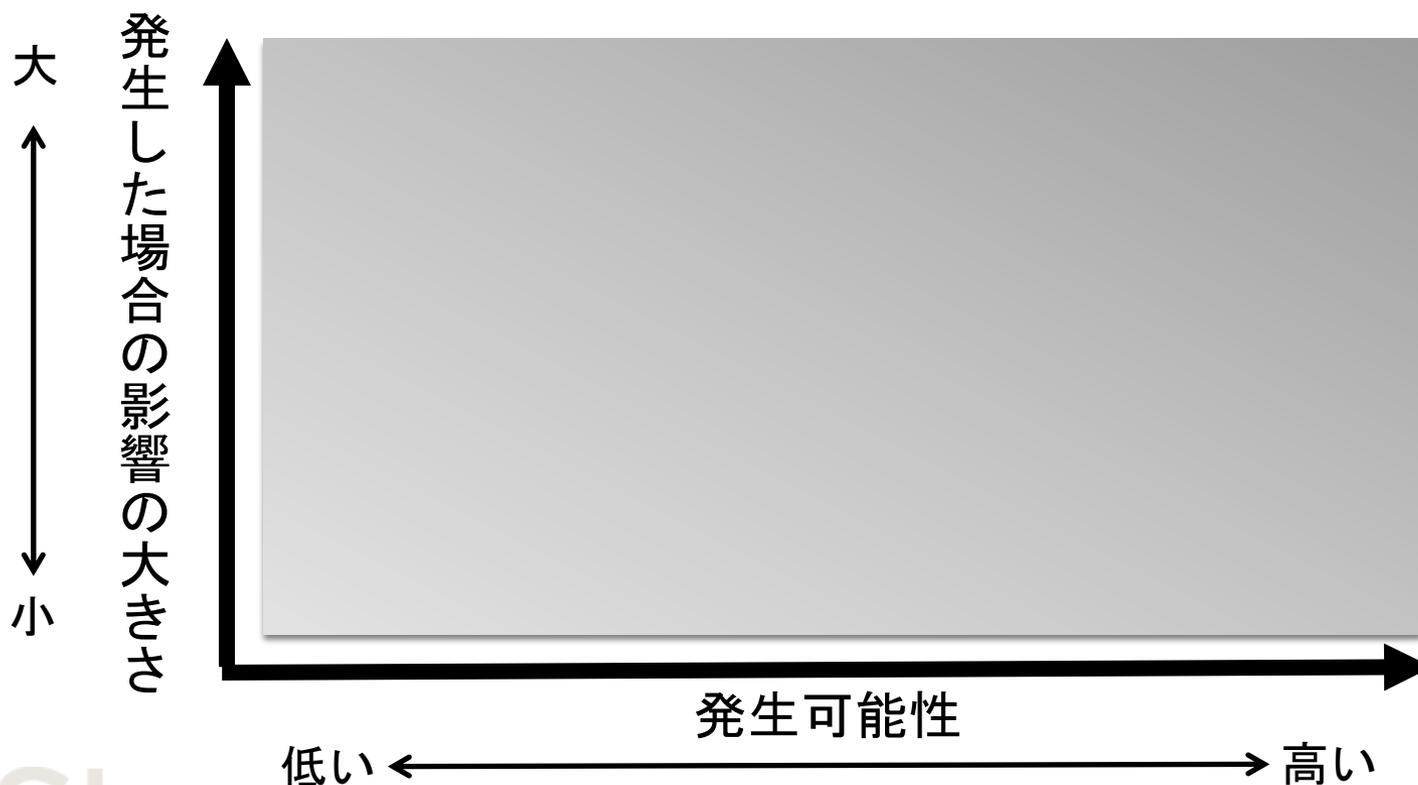
「リスク」という切り口のメリット①

可能性を、白か黒という二分法ではなく、定量的あるいは定性的に、その間のグレーの程度を表現できる。

- × 「〇〇になるリスクがある」
- × 「〇〇になる可能性はゼロではない」
- × 「〇〇はありえなくはない」

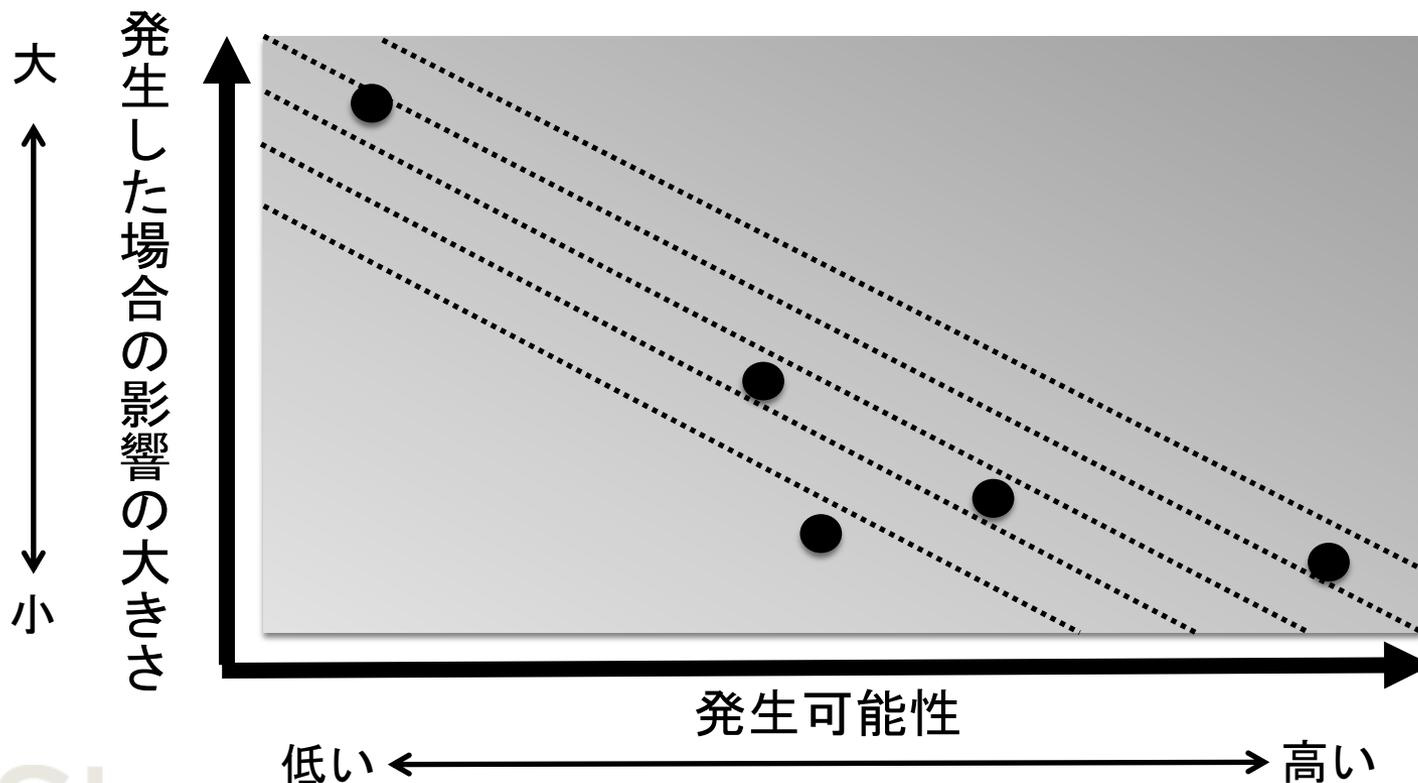
「リスク」という切り口のメリット②

可能性を、発生可能性と発生した場合の影響の大きさの2軸に分けて議論できる。



「リスク」という切り口のメリット③

リスクの大きさを、他のリスク、あるいは同じリスクの過去と比較することが可能になる。



リスク学のスタートは 「何を守りたいか」

※ここを最初に確認しないと議論がかみ合わないことになる。

例：医療リスクのケース

医療安全は、組織（病院）の
「**リスクマネジメント**」としてスタート

患者の安全と
矛盾しかねない

守りたいもの：組織（の財産）
リスクの種類：法律的、財務的（事後）

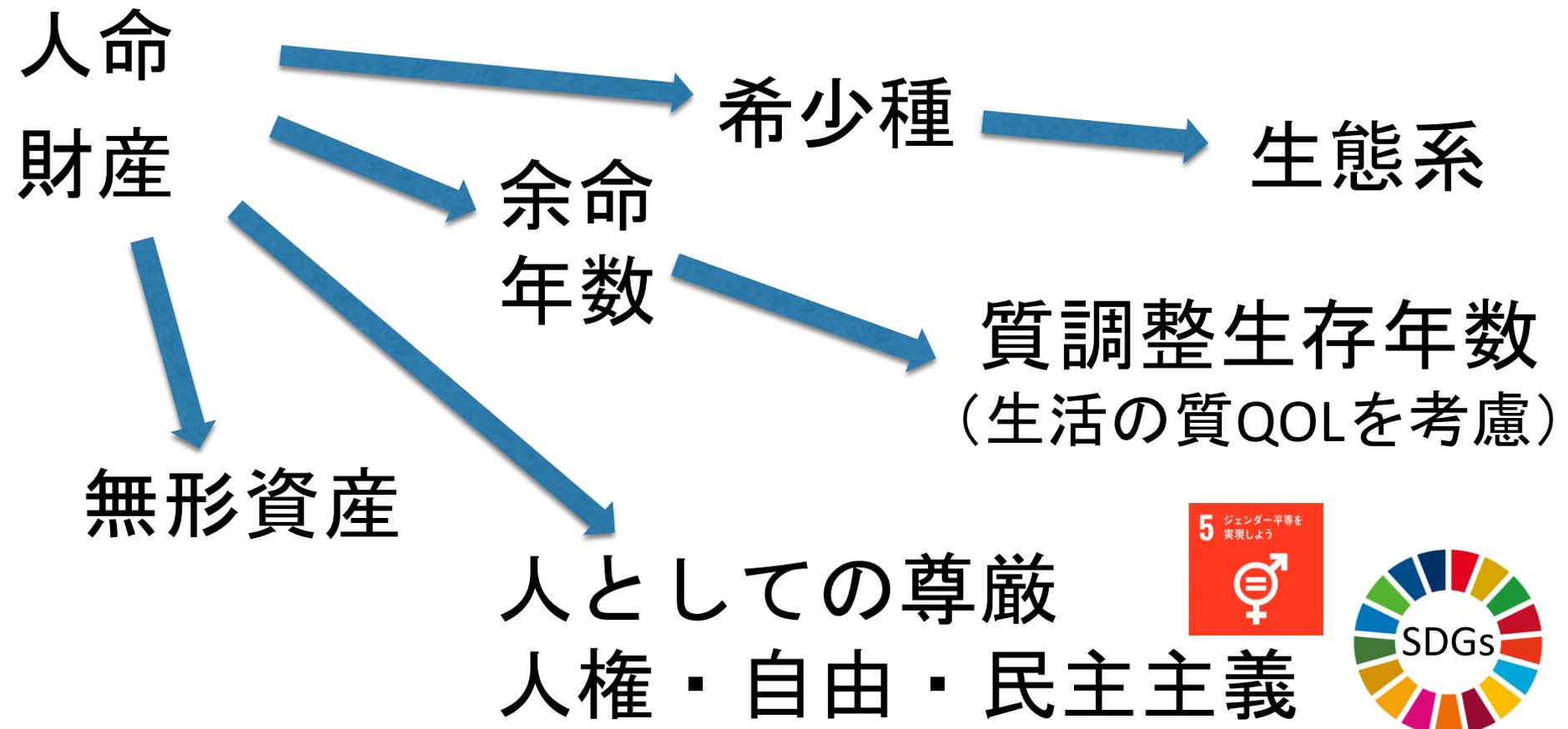


医療安全は、WHOが主導して世界的に
「**患者安全（patient safety）**」へ

病院側と患者側
の利害が一致

守りたいもの：患者
リスクの種類：生命や健康（事前）

リスク学の歴史は 「何を守りたいか」の拡大の歴史



Ethical, legal and social issues

ELSI (倫理的・法的・社会的課題)

- 米国で1990年にスタートしたヒトゲノム解析プロジェクトの中に「ELSI研究プログラム」が誕生（当時、Issuesではなく、Implications）
- ヒトゲノムがすべて解読されるとどんな影響が起こりそうかをあらかじめ予想して対応しておくという発想。
- NIH等の外部向け研究予算の3%（のちに法律で「少なくとも5%」）がELSIに関する研究に割り当てられる。
- 研究成果は、米国で2008年に成立した「遺伝子情報差別禁止法（GINA）」につながった。
- 生命科学分野では“ELSI”という言葉は定着したが、ざっくり「技術以外のその他すべて」あるいは「生命倫理」を指すものとして使われてきた。

E (倫理) ・ L (法) ・ S (社会)

を分けて考えるという発想

(おおざっぱなイメージ・区分)

法 (L)

倫理 (E) からの
不断の見直し。

倫理 (E)

社会において人々
が依拠すべき規
範。安定的。
法 (L) の基盤。

社会 (S)

変化しやす
い。直観。不
安定。

新しい事態

例：新規技術の社会実装

(ドローン、自動運転、スマホ、オンライン会議...)

例：新型コロナウイルスの蔓延

例：新型コロナウイルスへの対策

(リモートワーク、短縮営業、一斉休校、接触確認アプリ)

法 (L)

倫理 (E) 社会 (S)

ギャップ
が発生

ギャップ
が発生

ギャップ
が発生

新型コロナウイルスのELSI



感染症そのもの&感染症対策によるもの

	公衆衛生	医療	社会経済	国際関係
倫理的 課題 (E)				
法的 課題 (L)				
社会的 課題 (S)				

事前にどんな影響が起こりそうか想像して備えることは「〇〇影響評価」として制度化されつつある。

Impact Assessment

- ・健康/安全リスクアセスメント
- ・環境影響評価（環境アセスメント）
- ・テクノロジーアセスメント
- ・規制影響評価（RIA）
- ・プライバシー影響評価（PIA）
- ・ジェンダー影響評価
- ・人権影響評価
- ・アルゴリズム影響評価

再掲

ジェンダー平等とリスクマネジメントの関係

- ・ジェンダー不平等自体が、国・組織・個人にとって、リスクであり、
- ・コロナパンデミック（に限らず、あらゆる災害）は、もともとからあるジェンダー不平等リスクを、
- ・生物的、経済的、社会的、家庭的、学術的・・・といった多様な方面で拡大したことが
- ・実証的なデータからも言われている（し、最初からある程度、予想されていた）。

ただし、プラスの面（やプラスにするチャンス）はなかったか調査してみるのも面白いと思う。個人的にはけっこうあった。